

〈目的〉現在、わが国は急激な人口の高齢化に直面しようとしている。それにもなつて高齢者への在宅サービスのニーズが増大している。そこで、私はサービスの1つである給食サービスについて、受ける側の高齢者が満足できる望ましい食事のあり方を考察するために、食事満足度に着目し、高齢者の食生活に関する調査を行った。

〈方法〉対象は、1989年3月1日現在の住民一覧表より無作為抽出した65歳以上の男女556人である。調査は1989年7月から9月の時期に、質問紙による個人面接法にて行った。対象地域は長崎県、山口県および岡山県内の4地域を選んで行った。

〈結果〉給食サービスについては独居に限られていたり、年齢制限があり、制約されるためにどの地域も利用者が少ない。給食サービスの形式には宅配と会食が考えられるが、会食を希望する割合の高い地域と、宅配を望む割合が高い地域にわけられた。

次に食事満足度を把握するために8項目の質問を設けた。そして食事満足度とそれに影響すると考えられる89の質問項目との関係を見るために $\chi^2$ 検定を行った。その結果、5%以上の水準で35項目に有意差が認められた。そこで $\chi^2$ 検定の結果と高齢者の生活構造を考え、食事満足度に影響を及ぼすと考えられる15要因（食生活の留意度、食事時間の会話、食品摂取状況、食事量、行事食など）を選定し、満足度とこれらの要因との構造を考察するために数量化I類により分析を行った。その結果、食事満足度と15要因との重相関係数は0.7であった。